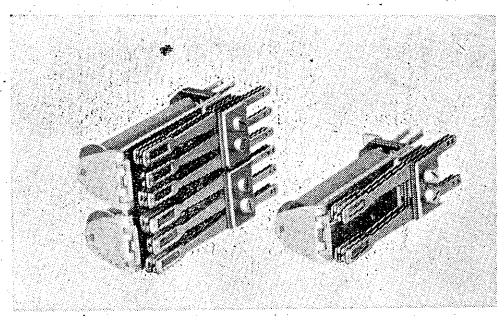
56 號通信用繼電器

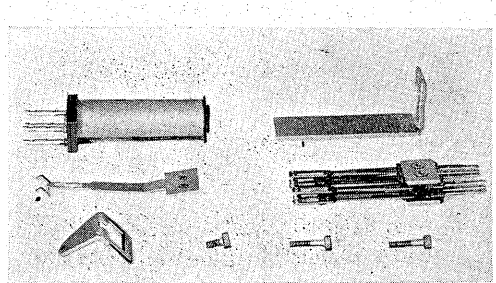
電話用繼電器としては、70號平型が當社標準の自動交換機其他一般制御用として從來廣く行はれて居るが、近年容積及所要材料の節約等の見地から更に小型の所謂 56 號型繼電器が製作、完成せられ廣く各方面の要望に活用せられる事となつた。

構　造

本繼電器の外觀と構成部分は第1圖及第2圖に示す通りで、之と從來の 70 號型との相違を更に第3圖に於て比較對稱して居



第1圖　外觀（二箇付及一箇付）



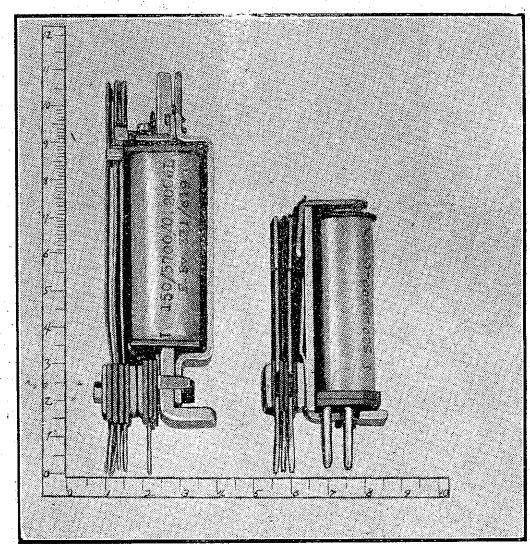
第2圖　構成部品

る。卽ち容積及び重量に就いてこの 56 號型を、從來の 70 號平型及び更に夫以前より行はれて居る 60 號丸型と比較すれば、次表の如き減少を示して居るのである。

繼電器	56 號	70 號	60 號
長　さ	7.5糎	10.7糎	9.0糎
取付面積	3.7×2.1=7.7糎^2	3.5×2.5=8.7糎^2	5.0×2.5=12.5糎^3
容　積	57.8糎^3	93.1糎^3	112.5糎
重　量	106瓦	200瓦	260瓦

以上の表に依つて見るときは 56 型はその長さ、容積、及び重量に於て從來のものより著しい減少を來し、殊に容積と重量に於ては、70號に對し約半減せるものと謂ふ可く、此の事は引いては裝置架全體の所要、空間、及び搭載重量の點に於いて著しい實際的効果を與へる事となるのである。從つて一方他の各種機器の裝備せられる極めて狹い箇所にも取付けられる適合性を有して居るのである。

本繼電器は第1圖より見る如く、特別の場合には2個を共通の繼鐵上に並置し、共通の一個の留捻子を以て裝置架に取付ける二箇付一單位の所謂双子型のものも考へられて居る。

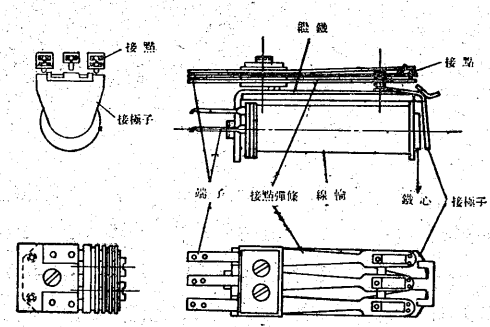


第3圖　70號及 56號繼電器

性　能

1）接點彈條は 70 號型に於て 50 種の多數に上るに對し、56號型に於ては僅かに2種類であり、可動部と固定部とより成立つて居る。卽ち可動彈條は厚さ 0.4 粍にして薄く、固定彈條は 0.8 粍にして厚くなつて居り、接點の接觸には充分の追從（フオロー）があつて、而も從來と同樣二重接點となつて居るから接觸は確實である。

又接點は動作、平常、轉換の三種にして、最大5枚重ねの接點彈條を3列卽ち 15 枚を搭載し得るから、此の點に於ては型は小さく共、回路構成上 70 號と全く同等の機能を備へてゐるのである。



第4圖　56號小繼電器の構造

2）接極子は 70 號に於ては繼鐵と同體になつて居る關係上30瓦あつて慣性が大であり、60 號に於ても 15 瓦あるのに對して、56號型に於ては僅かに4瓦であつて最も輕量であり、接點の刎返りも少く動作迅速にして、安定である。且本繼電器に於ては接極子抑へとして、通常は 0.4 粍のものを使用するが特別の場合は

（以下 207頁へ續く）

＊本誌に記載されている会社名および製品名は，それぞれの会社が所有する
商標または登録商標である場合があります。